

電力自由化から1年:新電力アンケート結果

2017年8月3日

パワーシフト・キャンペーン運営委員会

パワーシフト・キャンペーンは、電力小売全面自由化のもとで持続可能なエネルギーへのシフトを呼びかける環境団体・消費者団体による活動です。 <http://power-shift.org/>

電力自由化から1年、新電力各社をめぐる状況や今後の展望を把握するべく、アンケートを実施しました。約180社にメール送付したうちの25社から回答を得、網羅的ではありませんが、再エネ調達や販売に関して現場の声をいただきました。

実施概要

実施主体： パワーシフト・キャンペーン運営委員会

アンケート対象： 登録小売電気事業者（約400社）のうち
経済産業省ウェブサイトでメールアドレスがわかる各社
電気事業低炭素社会協議会参加各社
パワーシフト・キャンペーンとこれまでご連絡のある各社
合計 約180社

実施期間： 2017年6月1日～6月30日

アンケート方法： eメールで質問票を送付、メールもしくはフォームへの入力で回答

アンケート内容： 別紙参照

回答者（25事業者）の概要

- ・パワーシフト・キャンペーンで紹介：14社 それ以外：11社
- ・電気事業低炭素社会協議会参加事業者：2社 それ以外：23社

・事業者名公開可能： 株式会社CWS（ならコープでんき）、エネックス株式会社、（株）日本エコシステム（じぶん電力）、長崎地域電力、芝浦電力株式会社、太陽ガス株式会社、株式会社中之条パワー、（株）生活クラブエナジー、株式会社パルシステム電力、株式会社中海テレビ放送

お問合せ： パワーシフト・キャンペーン事務局

〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9 （FoE Japan 内）

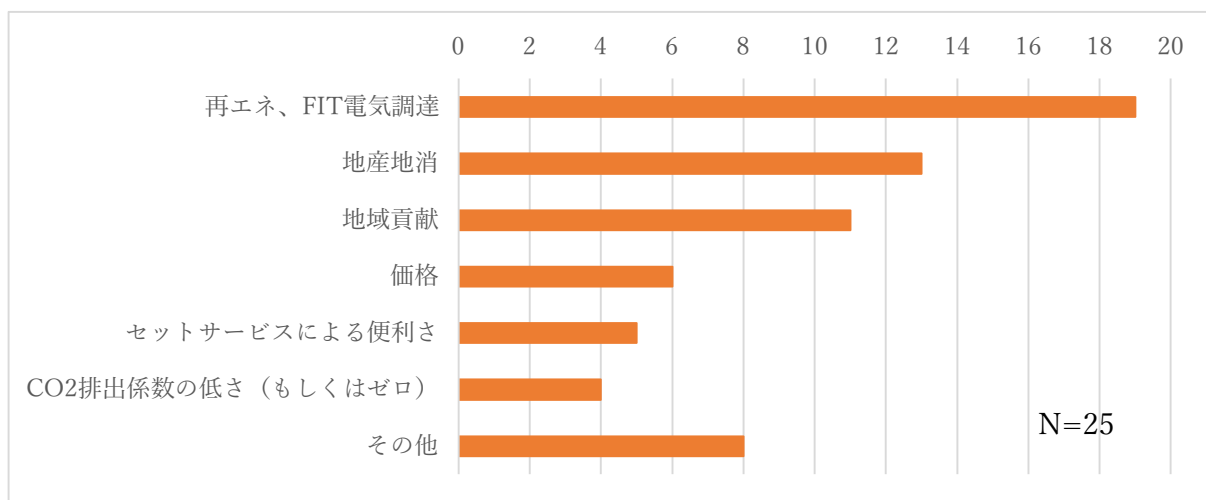
TEL：03-6909-5983 FAX：03-6909-5986 Email：info@power-shift.org



アンケート結果

1. 貴社の電力小売事業で、もっともアピールしたい点は何でしょうか。（複数回

答)



2. 1のアピールしたい点について具体的に教えてください。

<FIT 電気や再エネ調達をアピール>

- ・ ならコープグループで運営中の FIT 電源を導入して地産地消のエネルギー供給を目指しています。
- ・ 再エネ 100%の世界を目指す。そのために行動する。
- ・ 50kW 未満の FIT 電源を約 80 基買取しており、全体の電源構成比でも約 30%弱である。
- ・ 当社の電気（太陽光発電分）は送電線を通さず、他の電気とは混ざらない純粋な再エネ電源です。
- ・ 可能な限り再生可能エネルギーでの電力販売を地域において行う。
- ・ 市民共同発電所の電気も調達している。今後も積極的に調達していきたい。"
- ・ 次世代に大切な環境を引き継ぐために「温暖化防止」と「脱原発」に取り組み、また、地域経済の発展に寄与できる地域分散型エネルギーの実現を目指しています。

<地域貢献をアピール>

- ・ 経済の地産地消という形で地元の方の雇用をハローワークを通じて積極的に行っており、事業拡大による税収増に貢献している。また地域活動にも全社員で参加するなど、事業外での活動も積極的に行っている。"

- ・ 1. 再エネ 100%の電力会社を目指しています。2. 電気事業者として CO2 ゼロの排出係数事業者です。

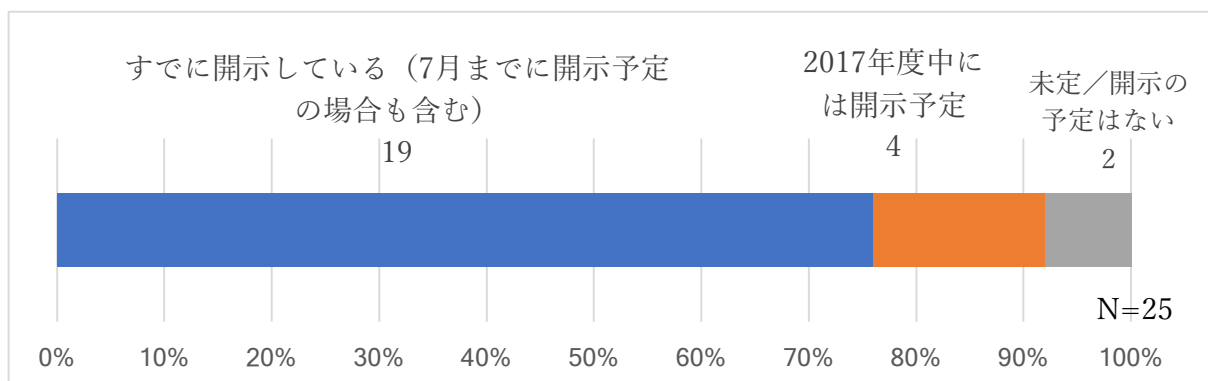
<価格やサービスをアピール>

- ・ グループの各種サービスに合わせてお申し込みいただくと、割引が適用されたり、グループの P O I N T が貯まったりするなど、ますますおトクが広がります。
- ・ 高圧・低圧向けの見える化サービス
- ・ 再エネでも安い点と基本料金 0 円の点。
- ・ 電力小売事業者でもトップクラスの価格競争力がある。
- ・ 利用量に応じない一定の従量単価、既存ケーブルテレビサービスとの大幅なセット割引額

<その他>

- ・ 事業の継続性（安心してもらえる企業）
- ・ 総合的なエネルギーマネジメント。安心で安全な再エネ、特に小水力の開発に取り組んでいる。今年中に 1 号機の稼働をめざす。
- ・ その他：生活クラブエネルギー7原則と「生活クラブでんき」の共同購入の位置づけ、生活クラブにおける自然エネルギー電源の自前開発
生活クラブ組合員による電気の共同購入を通じて、自然エネルギー発電所からの調達を推進し、実質的な脱原発をすすめる。調達した毎月の電源構成について情報公開を行う。
生活クラブエナジーを通じて電力消費する組合員と自然エネルギー発電所のネットワークを広げる。"
- ・ 既存顧客向けのホームページを開設し、使用電力量や請求金額等をご確認いただけるサービスを提供。"
- ・ グリーンコープは、1986年のチェルノブイリ原発事故を受けて、「いのちと原発は共存できない」とし、脱原発社会をめざして取り組みを進めてきました。そして福島第一原発事故によって大きく電力システム改革が進展し、市民も電気を選べるようになりました。それによって、原発に反対するだけではなく、電気を自分たちでつくって、その電気を使うことができるまでになり、30年来めざしてきた原発のない社会実現への道が開かれたと思っています。
まずは、できることから。組合員が使う電気を原発フリーにすることから。それをとおして脱原発社会を実現したい、そのことにできる限りの力を注ぎたいと考えます。そして次の段階として、自分たちの使う電気のすべてを自然エネルギーにしていくことをめざしていきたいと思えます。そこに至るまでにはさまざまな問題が山積しています。その一つひとつに地道にいていねいにグリーンコープらしく向き合っていきたいと考えています。

3. 電源構成の開示状況を教えてください。

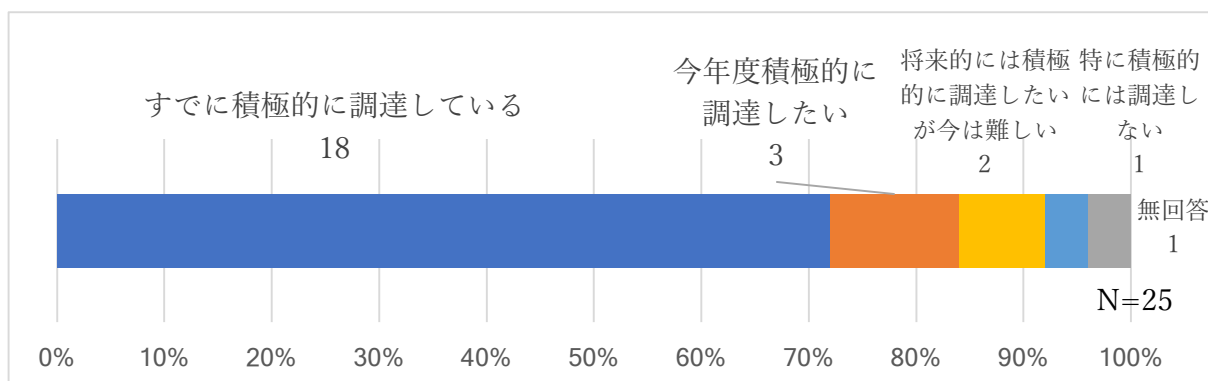


<非開示の理由>

- ・ 需要家からの問い合わせがあった場合、要望があった場合には、その時点の最新情報による電源構成を個別にご案内をしている。その時々で電源調達方法、電源種別も変わるため、公開の予定はない。

4. 再エネ電源 (FIT 電気、再エネ電気) の調達について、どのようにお考えでしょうか。

ようか。



<すでに積極的に調達している理由>

- ・ 太陽光発電と市場調達のみであり、今後バイオガス発電等電源確保予定。
- ・ 再エネ電源が支持され、拡大すれば、持続可能な社会の実現につながるため、再エネをさらに普及させていきたい。

<将来的に積極的に調達したい理由>

- ・ 事業開始間もなく、安定性・経済性とのバランスをとる必要があるため

<FIT 法改正による影響、ご意見>

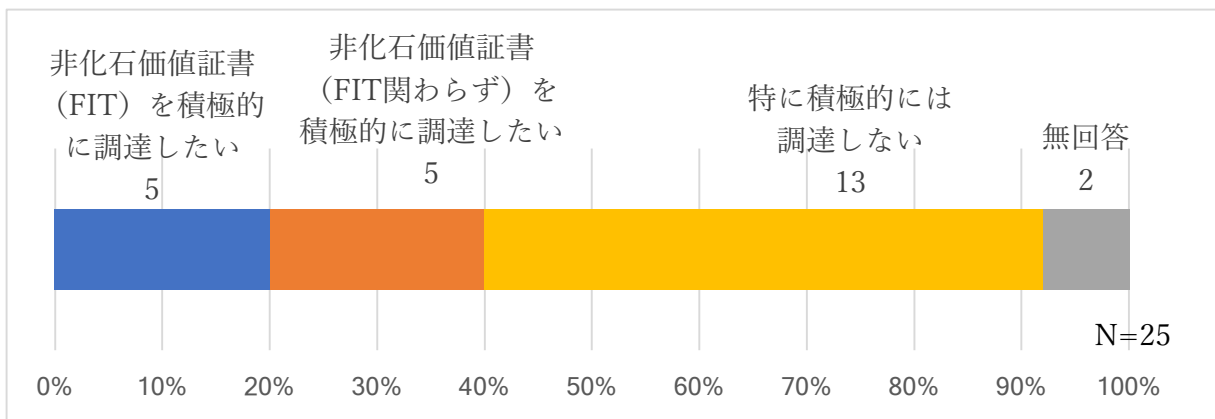
- ・ 回避可能費用の算定方法変更からこれ以上の F I T 電源調達は難しくなっている

- ・ 制度的に大規模な太陽光発電の電気を仕入れることが困難な状況
- ・ 改正 FIT 法による送配電買取制度により、新たな FIT 電気の調達を送配電事業者からの卸供給の形のみになりました。
従来より旧一般電気事業者へ売電している FIT 電気は、①旧一般電気事業者の小売部門との契約廃止（発電側）、②旧一般電気事業者の送配電部門との契約締結（発電側）、③卸供給の申込手続き（小売電気事業者）と 3 段階の手続きがあり、実務負担が重く、時間がとてもかかっています。
- ・ 激変緩和措置でない FIT から調達してもメリットがない？
- ・ 弊社の小売開始が昨年 3 月からだったので、激変緩和措置前の再エネの調達量には限度があった。そのため低価格な再エネは調達できていない。また資金繰りの面でも FIT 電源は再エネ交付金が入ってくるまでに期間があり、大量の FIT 電源を持つことがリスクであった。今年度からは制度変更もあり、再度 FIT 電源の調達を積極的に実施していきたい。新しい発電所も増やしていく必要性もあるが、系統容量の空き容量の問題が課題点である。
- ・ 市場価格連動となり、再エネ電源を調達するうまみが薄れたため

<その他のご意見>

- ・ 再エネ 100% という意味には、電源構成比で 100% ということもあるので。更には、その電源構成比も、電源を寄せるだけでなく、将来的には社会全体でも可能な電源構成比を目指すことが重要。

5. 非化石価値証書（再エネ証書）の調達について、ご意見をお聞かせください。



<非化石証書（FIT）を積極的に調達する理由>

- ・ 需要者のニーズがあれば、調達したい。
- ・ 非化石価値市場は再エネ賦課金の高騰を抑制する働きもあり、そもそも FIT 制度自体、環境価値の追加性を想定してつくられていないこともあり、後付だとしても、経済性と環境価値の面で再エネの非化石環境価値は弊社にとって興味をもっている。

- ・ 積極的に調達したいと願う一方、現実的には難しい問題を抱えることとなります。それは、国の電力システムの中ではFIT電源を使うと価格的に高くなってしまおうという状況にあるということです。実際は燃料代がかからないはずの自然エネルギーの電源ですが、FIT制度ではそのようにはなりません。日本では今でも「原発の電気が安い」「ベースロード電源は主として原発と火力」という仕組みの中にあります。このような現実と向き合わざるを得ません。

<非化石証書（FIT 関わらず）を積極的に調達する理由>

- ・ 上記4に記載した課題（安定性・経済性ととのバランスをとる必要がある）はあるが、二酸化炭素排出量低減に向けた取組みは必要と考えるため
- ・ 自然エネルギー利用の電気を選ぶという選択があることを世間に伝えたい。
- ・ CO2 排出係数低減のため、安価に調達できるのであれば調達したい。現状、クレジットの償却で対応しているが、調達価格高騰による調達環境悪化のため。

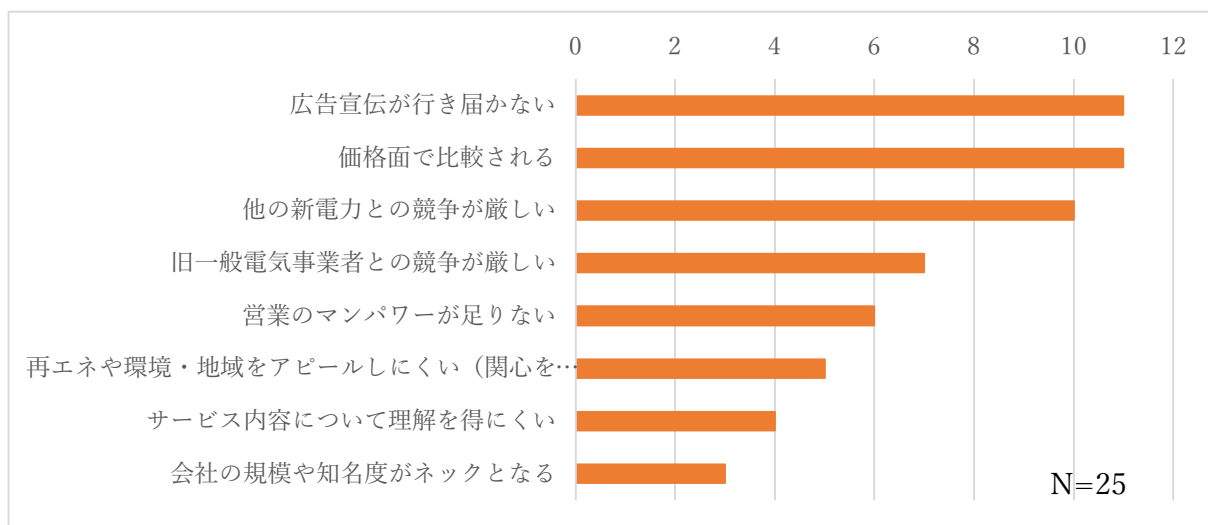
<特に積極的にには調達しない理由>

- ・ 制度の詳細がまだわからず、現段階で判断できない（J-CREDITとの比較もできない）
- ・ 電力そのものと切り離された環境価値の証書化という概念について、顧客（生協組合員）への説明が難しく、理解を得にくいと考えるため。
- ・ 非化石価値証書の平均的な価格等が不明の為、新エネルギー負担金や Co2 排出量の購入等で財団の運営状況に影響を及ぼしているため、現状で新たな負担は、厳しい状況です。
- ・ 未だ計画段階の制度のため、検討を保留したい。
- ・ FIT 電源の自前での調達にこだわりたいため。
- ・ まだ方針が定まっていません。
- ・ 様子を見て判断
- ・ 現状始まっていないので何とも言えないですけどまずは自社電源を作ることを最優先の課題と捉えています
- ・ 原子力発電の電力が含まれるのであれば、会社の理念にそぐわない為
- ・ 発電事業者とのつながりを重視して再エネを拡大する方針であり、市場を通して価値そのものを調達することを目的としていないため。

<無回答>

- ・ 非化石価値市場の現実的価値、需要化における要望、価格等に関して情報収集し、決定していきたい。

6. 顧客獲得における課題があれば教えてください。（複数回答）



<価格競争が厳しい>

- ・ 当然のことであるが、価格ありきで競争は厳しい
- ・ エネルギー系や通信系の事業者は価格競争力や他サービスでの還元力が高いため、体力勝負になってきている
- ・ 電源調達に明らかな差異があるのを感じる。新電力では到底設定できない単価で市場開拓をしている。
- ・ 旧一般電気事業者が、長期契約等による値下げを活発化してきて顧客獲得が難しくなってきた
- ・ 圧倒的な価格で中部・関西電力管内を電力会社が新電力対象に営業している。
- ・ 切り替えを決断する基準がほとんどの場合価格であること。
- ・ 300社以上の登録がある中で、コストをかけないと知名度はあがりにくい。電力会社の中身を知って欲しい。長いスパンで再エネを普及させようと、真面目にやっている新電力にとっては、大手新電力と市場を荒らす知識の足りない新電力のおかげで、コスト競争に陥りやすいこともあり、現状の市場は厳しい。
- ・ 旧一般電気事業者（旧一般電気事業者の子会社）の台頭により、弊社では価格追随できないような提案も多く、競争がより激化している。
- ・ 一般家庭への売電は費用対効果（集金業務等）で採算性が難しい
- ・ 需要家の電力小売に対する関心の高まりから、複数社との相見積を取られるケース多い。価格面以外での差別化が難しいため、価格の引き下げ合戦がより一層激化している。

<サービス内容や特徴に関するアピール>

- ・ 担当者への商品訴求学習時間が作り出しにくい。営業時間の確保(兼務のため)
- ・ 電源構成に無頓着な方が多い。
- ・ でんきは目に見えないものなので、なかなか切り替え訴求が難しいです。

- ・ まず話を聞いてもらうことができれば理解してもらえます。
- ・ 私たちは、顧客獲得というより、原発のない社会を実現するということを運動として取り組んでいます。脱原発運動を推進することによって、電力事業を成功へと導くということです。根底にあるのは、安寧な地域社会の中で健やかに生活していきたいという組合員の希いです。そのことを多くの人に伝え共有していくこと、それが私たちの運動だと考えています。一気呵成にはいきませんが、時間をかけて取り組んでいきます。

<その他>

- ・ 多数の新電力台頭により、既存顧客へのアプローチも多く、顧客の囲い込みが急務。
- ・ 課題といえばすべてが課題だが、そのすべてで挑戦していくだけ。

電力自由化から1年 新電力アンケート（アンケート票）

1. 貴社の電力小売事業で、もっともアピールしたい点は何でしょうか。（複数回答可）

- | | |
|----------------------------------------------|----------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 再エネ、FIT 電気調達 | <input type="checkbox"/> 価格 |
| <input type="checkbox"/> 地産地消 | <input type="checkbox"/> セットサービスによる便利さ |
| <input type="checkbox"/> 地域貢献 | <input type="checkbox"/> その他 |
| <input type="checkbox"/> CO2 排出係数の低さ（もしくはゼロ） | () |

2. 1 のアピールしたい点について具体的に教えてください。

3. 電源構成の開示状況を教えてください。

- すでに開示している（7月までに開示予定の場合を含む）
- 2017年度中には開示予定 未定／開示の予定はない
- （未定・予定なしの場合理由： ）

4. 再エネ電源（FIT 電気、再エネ電気）の調達について、どのようにお考えでしょうか。

- すでに積極的に調達している
- 今年度積極的に調達したい
- 将来的には積極的に調達したいが今は難しい
- 特に積極的には調達しない
- （理由や詳細、改正 FIT 法へのご意見もあれば： ）

5. 非化石価値証書（再エネ証書）の調達について、ご意見をお聞かせください。

- 非化石価値証書（FIT）を積極的に調達したい
- 非化石価値証書（FIT 関わらず）を積極的に調達したい
- 特に積極的には調達しない
- （理由や詳細： ）

6. 顧客獲得における課題があれば教えてください。（複数回答可）

- | | |
|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 広告宣伝が行き届かない | <input type="checkbox"/> 他の新電力との競争が厳しい |
| <input type="checkbox"/> 営業のマンパワーが足りない | <input type="checkbox"/> 会社の規模や知名度がネックとなる |
| <input type="checkbox"/> 再エネや環境・地域をアピールしにくい
（関心を持ってもらえることが少ない） | <input type="checkbox"/> サービス内容について理解を得にくい |
| <input type="checkbox"/> 旧一般電気事業者との競争が厳しい | <input type="checkbox"/> 価格面で比較される |
- （具体的に： ）

貴社名： ご担当者名： 部署：

電話番号： Eメールアドレス：

* 回答社名の公開について 公開可能 / メディアにのみ公開可能 / 匿名を希望

ご回答ありがとうございました。